

小規模林業経営の実態把握と分析

技 師 谷 村 武 雄
技 師 海 沼 武 一

1 緒 言

県内の個人有林で、所有者の大部分を占めている小規模林家について——(1)造林を進める上での問題点、(2)保育を行なっていく上での問題点、(3)林業収入についての問題点および(4)林業経営に、対する意向等を調べ、どんなところを改善していったら経営上有利なのかをつかむため昭和40年度から調査を進めてきたが、昭和42年度までは、(1)造林を進める上での問題点として——造林が進まない原因には、資金的な原因、労力的な原因および意識的な原因があることがわかった。(2)保育を行なっていく上での問題点として——山林作業では、人手不足等のため、適期適作業が守られていないこと等がわかった。(3)林業収入上の問題点として——年により、林業収入の額に、かなりむらがある。これは幼令林が多く、伐採できる林分が少ないためで、林家の悩みのひとつになっていること等がわかった。昭和43年度は次のように、(4)の林家の意向調査を主とし、あわせて(2)については保育作業のやり方、(3)については労働報酬の面からみた林業収入上の問題点を、それぞれ調査し取りまとめた。

- 1) 林家は林業経営上、どんなことで悩んでいるのか——林家の意向調査。
- 2) 山林の保育作業のやり方で、最近問題になってきていることは何か——山林の保育作業の実態の調査。
- 3) 労働報酬の面からみた林業収入上の問題点は何か——林業労働報酬についての調査

2 昭和43年度の取りまとめ

(1) 林家の意向調査

1) 目 的

小規模林家が、山林の経営について、どんなことに悩み、どんな意向を持っているのかを調査する。

2) 方 法

ア 調査対象

県北：軽米町・岩泉町・岩手町・平石町地内

県南：大東町・遠野市・宮古市・紫波町地内

から抽出した、それぞれ236戸、391戸の林家。

イ 調査方法

アンケート調査。

3) 結果および考察

図-1 のとおり、次のことがらわかった。

ア 経営基盤

林道に恵まれた林家が少なく、林道網の充実が必要である。造林をもっと進めるため、補助、融資制度の強化が望まれる。なお、3人に1人は、所有山林の拡大を希望している。

イ 林業労働

地拵、下刈作業が重荷となっている林家が多く、作業省力の工夫が必要である。山林作業への就労は老人が多いが、若手の労働力をもっと必要としており、後継者を山に引きとめる対策の強化が望まれる。なお、林業の協業化を望むものは、県南に多い。

ウ 経営の形態

毎年、造林を実行していこうとする林家が少ないが、できれば保続的に毎年、造林を続けるよう指導援助する必要がある。

一方、ほぼ5人のうち1人は、林業専業ですすむ意向を示している。

なお、多くの林家では、特産の導入を希望している。

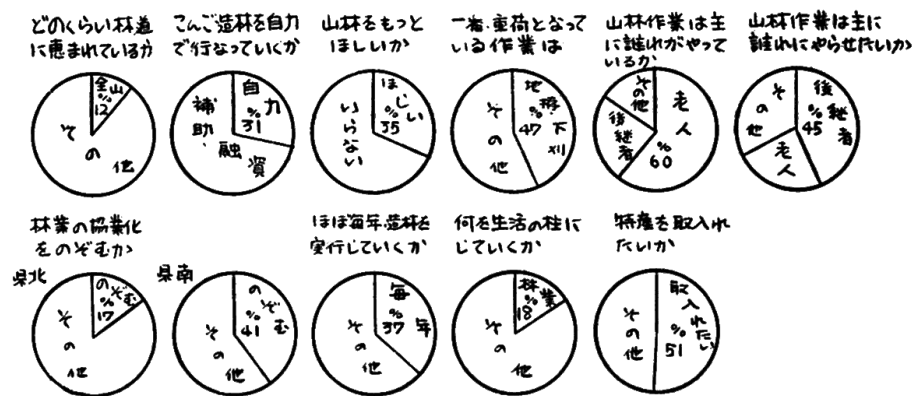


図-1 アンケート調査結果（戸数比率）

(2) 山林の保育作業の実態の調査

1) 目的

造林を比較的さかんに行なっている林家について、保育作業のやり方の実態を調査し、問題点をとらえ、その対策を検討する。

2) 方法

概略を過去3年間、記帳による経営調査を実施してきた72戸の代表林家について、大数分析*し、詳細を比較的造林の進んでいる1戸の代表林家について事例分析する。

*大数分析とは調査戸数を沢山とり、全体の特徴をおおまかに分析する方法である。

ア 分析対象

大数分析：大東町・雫石町・軽米町等計 8 市町村から選んだ各 9 戸ずつの代表林家。

事例分析：大東町大原 S 家（人工林率、約60%）。

イ 分析方法

大数分析：山林の作業について、造林の進んでいるグループと遅れているグループとを比較する。

事例分析：山林の作業について、改善計画書（林政課指導）の計画量と実行量とを比較する。

3) 結果および考察

ア 大数分析

造林の比較的進んでいる層は、表一1に示すように、最近も造林をさかんに行なっている家が多く、

表一1 改善計画書設計林家の造林の進み具合（戸数比率%）

階層	階層	造林の進み具合	進み具合			
			遅	中	やや進	進
最近の年間の造林の大小	植林率	人工林率	20%未満	20~30%	30~60%	60%以上
	大	3%以上	17	26	53	70
	やや大	2~3%	11	29	21	8
	中	1~2%	31	27	14	11
	小	1%未満	41	18	12	11
	計		100	100	100	100

造林が衰えていない。したがって保育面積も多いはずであるが、表一2に示すように、山林ha当りの投下労働はわりあい少なめである。このことは保育作業が十分行なわれていないことを意味するものと考えられる。

イ 事例分析

詳細をS家についてみると、表一3に示すように造林の実行量は計画量をかなり上回っている。これは表一4に示すように、作業全般の省力に努め、造林に力を入れてきたためで、その効果がみられる。一方、作業の省力は実行されているものの、下刈では作業能率のあがる高刈りを行なう傾向がある。

また、除伐、枝打等の保育作業が徹底されていない。

これらは、いずれも人手不足が直接の原因であるので、対策として、労働配分の調整にもっと力を入れていくと同時に、こういった造林のさかんな林家の多い地域には、特に労働組織として、協業や、労務班を育成してやる必要がある。しかし、どうすれば協業や労務班を育成できるかは、今後の問題となる。

(3) 林業労働報酬についての調査

1) 目的

造林が比較的進んでいる家について、林業経営の労働報酬を算出し、その問題点を調べる。

注) 植林率 = $\frac{\text{最近の年間造林面積}}{\text{所有山林面積}} \times 100$

表一2 代表林家の山林収入、山林労働の平均値

階層	造林の進み具合	進み具合			
		遅	中	やや進	進
山林ha当	収入	(千円) 5	6	6	7
	労働	(時間) 22	56	47	27
代表林家数		(戸) 25	13	23	11
改善計画書設計林家数		(戸) 262	82	170	73
同上比		1/10 ~ 1/16			128

注) 代表林家は改善計画書設計林家の内から選んだもの

表一3 計画と実行の概要 (昭38~42)

区分	計林	画分	実林	行分
方針	作業全般の省力 ↓ 余った労力で造林			
造林	4.91 (ha)		6.15 (ha)	
下刈	10.80		12.04	
除伐	2.58		—	
枝打	0.66		—	
間伐	—		—	

表一4 投下労働

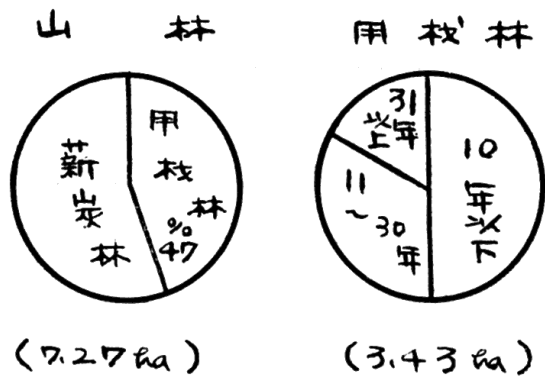
部門	年度	37年	42年
耕種		602 (人)	444 (人)
養蚕		118	58
養畜		130	64
林業		186	95
農外		15	112
計		1051	773

注) 各部門とも、年度により経営規模にほとんど変化がない。

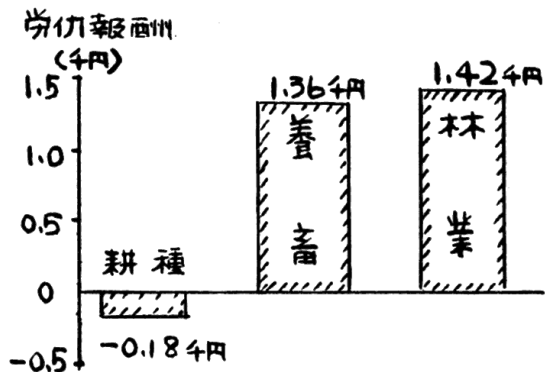
表一5 経営の概況

家	族	戸主	47 (才)
		妻	40
		長男	20
		次女	15
		三男	11
		計	5人
経営規模	山林地	7.27ha	
	耕地	0.45ha	
	ニワトリ	50羽	
	メンヨウ	1頭	
※林業	想定される収入	現金収入 林木成長	161(千円) 88
	支出	労働	2千円 79人

注) ※ 39~41年の3年間の平均値



図一2 山林の概況 (面積比率)



図一3 労働報酬 (1人1日当り)

2) 方法

ア 調査対象：宮古市重茂 S家。

S家の概況は表一5 および図一2のとおり。

イ 調査方法：大槻式簿記分析法

3) 結果および考察

当家の林業について、最近1年間の収支を調査した結果、1日当りの労働報酬は、図一3のとおり1,420円で、当家の耕種 (水田、畑)、養畜 (ニワトリ、メンヨウ) の1日当りの労働報酬よりも高く、林業は労力利用上かなり有利なものであることがわかった。しかし、表一5に示すように、想定される林業収入のうち、約半は林木の年間の成長量であり、今すぐ労働報酬として、現金化しえず、今後、長年、山林にすえおかれる形になる。そこに、林業独特の問題があり、林家の悩みがある。

3 要 約

(1) 林家は、林道網の充実、造林の補助融資制度の強化、地拵、下刈作業の省力技術の確立、後継者を山に引きとめる対策の強化、等を強く望んでいる。

(2) 造林の進んでいる林家での問題点として、最近、労力不足等のため、林木の保育がおろそかになる傾向がある。そこで、協業や労務班を育成してやり、労力不足に対処する必要がある。

(3) 「林業は農業よりも労働報酬が高い。」とよくいわれるが、これは1年間の林木の成長量を含めての話である。ところがこれは、今すぐ現金化することができない。そこで、林家に対し、この林木成長分を毎年現金でカバーしてやる対策が必要である。